

北限の海女 はじまります



北限の海女に聞く

NHK連続テレビ小説「あまちゃん」で一躍全国、そして世界的に有名になった小袖地区の「北限の海女」。久慈市の観光の柱の一つとして、また脈々と受け継がれてきた伝統文化として重要な財産の一つとなっています。

今年も7月1日から小袖海女センター周辺の素潜り実演場で北限の海女素潜り実演が始まります。

北限の海女の業を継承し活動している「小袖北限の海女の会」。所属する海女さんたちに、海女さんを始めた理由や小袖の昔話、東日本大震災からあまちゃん放映後までの様子、そして今シーズンの意気込みなど、さまざまな話を聞きました。

素潜り実演

7月1日(土)～9月30日(土)

(土・日・祝日)

※平日は要予約
時間：10時20分、11時20分、14時20分

料金：見学券1人／500円

小袖北限の海女の会 会長・副会長 インタビュー 震災を乗り越え「あまちゃん」へ

海女はいつから？

海女を始めたのは、中学生・高校生くらいの時です。観光海女と商業海女、潜り始めは異なりますが、十代の半ばごろには二人とも潜ってウニを採ったりしていました。仕事の都合や子育てなどで潜れなくなった期間もありますが、ずっと海女は続いています。

東日本大震災の記憶

東日本大震災のことは、忘れることはありません。小袖海女センターは全壊し、海女

の衣装や道具などすべてが流されてしまいました。正直なことを言うと小袖の中でも、もう海女を続けていくのは無理なんじゃないかという声も上がっていました。

しかし、辞めるのは簡単だけれど、小袖の海女の文化を絶やすことは、ずっと歴史を守ってくれた先輩たちに申し訳ないという思いもあり、ずっと悩んでいました。

そんな時、高校生海女クラブの子に「広子さん、今年も潜りに行くからね」と言われ、その一言に背中を押されて、

海女の素潜り実演を続けることを決めました。その年から海女の会の会長・副会長に就任することになり、プレッシャーで頭が真っ白になったのを覚えています。

実演の時期になり、潜ってみると地形も変わっていて、ヘッドロばかりでウニもツブもいみせんでしたが、実演に来てくれるお客様のために頑張って潜り続けました。

8月の第1週に「海女フェスティバル」を開催するのですが、その年は規模縮小して「海女つこ市」を開催しました。その日は朝から大雨が降っていたのですが、イベントが始まるその瞬間に空が晴れに変わり、私たちは助けられているんだと感じました。

あまちゃんの思い出

なんとか実演のシーズンが終わってほっとしていた12月から数回NHKの取材を受けました。ドラマを作りたいという話は聞いていたけれど、

まさか連続ドラマになるとは思ってもいませんでした。

9月の中旬に小袖でロケがあったのですが、実演場で水中ロケをしていたとき、数年潜っていますが、実演場にイカが泳いでいるのを始めて見ました。数十匹のイカが、アキ役の「のん」さんの後をついていくように泳いでいて、本当に不思議な光景に驚いたのを覚えています。例年のその時期は秋風が吹いて寒かったり、時化たりするのですが、ロケの間は雨も降らず毎日30度を超えていて、何かに守られているようでした。

あまちゃんの効果

NHKの人から凄い人数が来ると言われて、半信半疑でしたが4月1日から海女センターを開店しました。日に日に人が増え、連休には見たことがない程の人が小袖に訪れました。実は忙しすぎて「あまちゃん」をしつかり見たことがないんです。7月になって実演が始まると、さらに観光客は増えて、

今シーズンの抱負

ピーク時に比べると観光客は減ってきていますが、多くても少なくともやることは一緒。事故なくシーズンを終えること、来てくれたお客様に来て良かったと思ってもらうように対応するだけです。そしてもう一度来たいと思ってくれたらうれしいです。

今年も海女のシーズンが始まります。是非みなさん小袖にきて、楽しんでってください。お待ちしております。



Profile

小袖北限の海女の会 会長

大向 広子さん(右)

平成23年より同職に就任、現在は海女業と小袖海女センター管理に従事

小袖北限の海女の会 副会長

中川 やえ子さん(左)

平成23年より同職に就任、現在は海女業と小袖海女センター管理に従事